

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第五主日礼拝のしおり

2021年6月27日

前奏：

招きのことば：詩編 30 編 5-6, 十二-13 節

主の慈しみに生きる人々よ 主に賛美の歌をうたい 聖なる御名を唱え、感謝をささげよ。
ひととき、お怒りになっても 命を得させることを御旨としてくださる。
泣きながら夜を過ごす人にも 喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる。
あなたはわたしの嘆きを踊りに変え 粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。
わたしの魂があなたをほめ歌い 沈黙することのないようにしてくださいました。
わたしの神、主よ とこしえにあなたに感謝をささげます

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは「とき」を支配しておられます。私たちの人生のすべてをご存じです。そしてあなたの「とき」に、ふさわしいみわざをなしてください。そこに手遅れはなく、そこに失望はありません。イエス様はとき満ちて人として私たちのために来てくださり、十字架で私たちの罪を赦し、復活で私たちに新しいいのちを与えてくださいました。そして、わたしたちはあなたの御手の中で生かされています。今朝共に主の御前にお導きくださいましたことを感謝いたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大の心配を持ちながら、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。その中で私たちを励まして、私たちがこれからもさらに互いを赦し、また高め合って歩んでいけますように導いてください。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹でカづけてください。今日から始まる新しい一週間も、あなたに遣わされているところで、御名のみ栄えのために歩ませてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：コリントの信徒への第2の手紙8章7-15節

あなたがたは信仰、言葉、知識、あらゆる熱心、わたしたちから受ける愛など、すべての点で豊かなのですから、この慈善の業においても豊かな者となりなさい。わたしは命令としてこう言っているのではありません。他の人々の熱心に照らしてあなたがたの愛の純粋さを確かめようとして言うのです。あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。この件についてわたしの意見を述べておきます。それがあなたがたの益になるからです。あなたがたは、このことを去年から他に先がけて実行したばかりでなく、実行したいと願ってもしました。だから、今それをやり遂げなさい。進んで実行しようと思ったとおりに、自分が持っているものでやり遂げることです。進んで行う気持があれば、持たないものではなく、持っているものに応じて、神に受け入れられるのです。他の人々には樂をさせて、あなたがたに苦勞をかけるということではなく、釣り合いがとれるようにするわけです。あなたがたの現在のゆとりが彼らの欠乏を補えば、いつか彼らのゆとりもあなたがたの欠乏を補うことになり、こうして釣り合いがとれるのです。「多く集めた者も、余ることはなく、わずかしか集めなかった者も、不足することはない」と書いてあるとおりです。

福音書朗読：マルコによる福音書5章21-43節

イエスが舟に乗って再び向こう岸に渡られると、大勢の群衆がそばに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。会堂長の一人でヤイロという名の人が来て、イエスを見ると足もとに

ひれ伏して、しきりに願った。「わたしの幼い娘が死にそうです。どうか、おいでになって手を置いてやってください。そうすれば、娘は助かり、生きるでしょう。」そこで、イエスはヤイロと一緒に出かけに行かれた。大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」イエスがまだ話しておられるときに、会堂長の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう。」イエスはその話をそばで聞いて、「恐れることはない。ただ信じなさい」と会堂長に言われた。そして、ペトロ、ヤコブ、またヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれもついて来ることをお許しにならなかった。一行は会堂長の家に着いた。イエスは人々が大声で泣きわめいて騒いでいるのを見て、家の中に入り、人々に言われた。「なぜ、泣き騒ぐのか。子供は死んだのではない。眠っているのだ。」人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子供の両親と三人の弟子だけを連れて、子供のいる所へ入って行かれた。そして、子供の手を取って、「タリタ、クム」と言われた。これは、「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」という意味である。少女はすぐに起き上がって、歩きだした。もう十二歳になっていたからである。それを見るや、人々は驚きのあまり我を忘れた。イエスはこのことをだれにも知らせないようにと厳しく命じ、また、食べ物を少女に与えるようにと言われた。

讚美歌：238番

1. 「疲れたる者よ、我に来たり、重荷をおろして とく休め」と
招ける御声に 従いゆき、安けき憩いを 得(う)る嬉しさ
2. 「渴きたる者よ、わが与うる いのちの清水を 来り飲め」と
招けるみ声に 従いゆき、救いの泉を 汲む嬉しさ
3. 「暗きに住む者、我の照らす 真理(まこと)の光を 仰ぎみよ」と
招けるみ声に 従いゆき、み神のまさみち 踏む嬉しさ **アーメン**

説教：「あなたの信仰があなたを救った」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はガリラヤ湖のこちら側にかえってこられました。いつものようにそれを見て多くの群衆が集まってきました。ヤイロという、礼拝堂を管理している会堂長がイエス様をみつけて足元にひれふして、わたしの家で寝ている娘を助けてください、死にそうです、と熱心に頼みました。そこでイエス様はヤイロの家へ向かいました。ここでもうひとりの女性が登場します。十二年も出血のとまらない病いに苦しめられていました。医者も治せず全財産を使い果たしていました。肉体的にも経済的にも苦しい中でこの女性は歩いておられるイエス様の後ろから群衆を少しずつかきわけて近づき、期待をもって後ろからイエス様の服をさわりました。すると病いが治って血が止まったことを感じたのです。イエス様は立ち止まってこの女性にお声をかけられました。そうしているうちにヤイロの娘が死んだという知らせが入りました。それでもイエス様はヤイロの家に向かい、娘の手を取り「少女よ、起きなさい」というと十二歳のその娘は生き返り、すぐおきて歩き出しました。

十二歳の少女と女性の十二年の病苦というように、それまで経過した時間が記されています。イエス様は「とき」をご存じでした。ヤイロにとって、愛する娘が生まれてから十二歳になるまでのいろいろなことを思い出していたことでしょう。またこの女性は十二年間の長い苦しい年月をいつも振返っていたでしょう。イエス様は女性に、もうその病気にかからず元気に暮らさなさい、と言われました。その病気によって女性がどれほど苦しんできたかをご存じでした。イエス様は病気を治してくださっただけでなく、この女性の人生を立て直してくださったのです。また、少女は死んだとの知らせがあったとき、イエス様が間に合わなかったのだからもうどうしようもない、とうなだれる人々にイエス様は「恐れることはない、ただ信じなさい」と言われました。ガリラヤ湖の嵐をしずめられたとき、驚いた弟子たちは風も湖もイエス様に従う、と言いましたが、ここではイエス様は時間も支配しておられることがわかります。イエス様にとって手遅れはありません。遠回りも回り道もありません。イエス様の御手の中では「とき」は意味があります。私たちには「とき」のすべてを理解することができませんし、特に苦しいときには一刻も早くここから抜け出したいと一心におもいます。そんな私たちにイエス様は「恐れることはない、ただ信じなさい」と言われます。

イエス様が歩いてヤイロの家に向かっているのに気付いた女性は、何とかイエス様に触れたいと必死でした。出血がとまらないという病いは当時お汚れていると思われて、人々から離れて暮らさなければなりません。十二年も苦しんで医者にも見放され、お金も使い果たしてこの女性にしてはもう最後の望みだったのかもしれませんが。服にさわって病気が治ったと体に感じました。イエス様も力が出ていったことに気付かれました。イエス様は死にそうなるヤイロの子どもを助けるため急いで家に向かっているのに、そこに立ち止まって「だれがわたしに触

れたのですか」と見まわします。弟子たちは気が気ではありません。イエス様、そんなこと、もういいじゃないですか、あなたのまわりにはたくさんの群衆がひしめきあって歩いているのです、誰かが触れることもあるでしょう、それより早くヤイロの家に行きましょう、と言いました。それは女性の耳にも入っていたでしょう。みんな忙しいのに私なんかのために「とき」をとってくださるのは心苦しい、とも思ったかもしれません。しかしイエス様にとってこの女性がしっかり信仰にたって残る生涯を歩むことが大切だったのです。その女性のための「とき」だったのです。女性は恐ろしさに震えながらイエス様に申し出ました。これまでのこと、今触れたことなど、自分のすべてをイエス様にお話をしました。驚くべきイエス様のことばをいただきました。「娘よ」と呼んでいます。女性として、もう人目をさけて、苦しんで歩むことはない。あなたは大切なひとりの女性です、と呼び掛けてくださったのです。これまでの生涯のすべてには意味があったということです。そしてイエス様のところに来たその信仰が、今あなたを救ったのです、と赦しの宣言をしてくださいました。隠れてこそこそとイエス様に触れたら治ったという、後ろめたさはいりません。これから、元気に、神様の恵みに感謝をしてひとりの人として生きていくことへの後押しがありました。イエス様は今日、あなたにも罪の赦しの宣言をしてくださいます。これまでの生涯、今日までの一週間の歩みをすべて知ってくださり、あなたに時間をとって向き合ってください、ご自分の十字架の苦しみと復活のいのちがあなたのためです、と示してくださいます。あなたの罪は神様の前で公に赦され、安心してここから新しい一週間に歩みだすようにと後押しをしてくださいます。この女性にとって、一番必要だったのは、不信仰だからこんな病気になってしまったと自分を責める思いからの解放でした。でも、健康な他人の持っている立派に見える信仰ではなくて、それがあなたのどんな信仰であっても、イエス様のもとに期待をもってきたその信仰があなたを救ったのです、とイエス様は言ってくださいました。

そこについに恐れていたことが起こりました。ヤイロの娘が家で息を引き取ったので、もうイエス様に来ていただかなくてもよくなりました、と知らせが入ったのです。ヤイロは失望したでしょう。自分の病気が治るためにイエス様を足止めしたこの女性を一生恨む気持ちにもなったかもしれません。イエス様はペテロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、ヤイロの家におもむき、悲しみのため泣き叫んでいる人々に、子どもは眠っているだけです、と言ってあざ笑われながら、ヤイロと奥さんと三人の弟子だけを連れて少女の安置されている部屋に入りました。そこでイエス様は少女をよみがえらせたのです。

ここで見ることができるのは、イエス様は主導権をとって私たちを育ててくださることです。もともとヤイロは、イエス様が娘に手を置いて祈ってくれたら助かる、と思って、イエス様に今すぐ来てくださいと願いました。途中までヤイロの思い描いた段取りとペースでものごとは運びました。しかし、番狂わせがありました。あの女性の癒しです。自分の思い通りにことがはこばなくなったとき、イエス様の御手にお任せしてもいいことに気付かされます。イエス様に「とき」を任せることの信頼を学びます。それは無責任ではありません。自分がすべて把握

してことを進めなくても、なるようになる、という自覚に欠けたあきらめではありません。責任をもって導いてくださるイエス様の「恐れなくて信じていなさい」というみ言葉に信頼する生き生きした信仰です。

番狂わせがあったとき、人々は「お嬢さんは亡くなられたのでもうイエス様をわずらわせなくてもいいでしょう」と言いました。そのときからイエス様は、彼らの考えで動かされることがなくなり、すべてイエス様のペースでことを進めてくださいました。群衆のついてくることを許さず、ヤイロ夫妻と三人の弟子だけを連れていき、絶望に泣き叫んでいる人々のペースにのらず、イエス様はまっすぐ少女のもとへ進み、手をとって「タリタ・クム」と言われました。イエス様は「とき」をご存じです。そして、イエス様のときにイエス様の方法で、私たちの一番必要な祝福を与えてくださるのです。私たちがイエス様を操作するのではなく、私たちは祈りの中で「とき」をご存じのイエス様に、「恐れなくて、ただ信じて」お任せするところに安心と喜びがあります。ヤイロの真剣な祈りに応えつつ、イエス様はヤイロの考え以上にヤイロのほんとうの必要におこたえくださいました。自分のペースではなく「とき」をご存じの主イエス様の御手に任せるように、ヤイロの信仰を育ててくださいました。そしてヤイロは、自分だけの使命ではなく、とりまく人々とともにいただいている使命でもなく、夫婦の使命として、子どもを養い育てることを神様に託されていることを学びました。

私たちにも予定があります。このときまでにこうなっていないといけない、と逆算して歩みます。私たちにも願いがあります。あの人がこうならないといけない、子どもは、親は、こうなっていないといけない、と愛をもって真剣に考えています。それらは大切なことです。計画通りいかないこともあります。そのときどうなさいますか。そもそも私たちはイエス様の十字架の血潮によって罪の中から買い戻されてイエス様のものとされています。つまり、洗礼のときに「父と御子と聖霊の聖名によって」すべての罪を赦されて、その三位一体の神様の責任において新しい命を生きていく平安と喜びをいただいているのです。イエス様は「とき」をご存じです。わたしの願いをききながら、わたしの信仰を育て、また私たちの本当の必要なものを与えて導いてくださいます。失敗しないか、手遅れにならないか、人から何か言われないか、自分はちゃんとできるだろうかなどの不安や恐れはイエス様にお任せし、ゆったり、そしてしっかり、豊かないのちにいきていきましょう。家庭での自分の使命に気付きなおし、社会生活においても自分にまかされていることに精力を傾けて、命いっぱい神様と人々にお仕えして歩みましょう。イエス様があなたのために時間をあたえ、いのちを与え、あなたをひとりの人、ひとりの信仰者として育ててくださるように、わたしたちも今週、ひとりひとりの方々と向き合ってよく耳を傾けて、神様の祝福を受けてくださることができるよう役立って歩みましょう。

マルコ5:34 イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気に罹らず、元気に暮らしなさい。」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌：333番 献金 献金感謝の祈り

1. 主よ、われをば とらえたまえ、さらばわが霊(たま)は 解き放たれん
わが刃(やいば)を 砕きたまえ、さらばわが仇に 打ち勝つをえん
2. わが心は 定かならず、吹く風のごとく 絶えずかわる
主よ、御手もて ひかせたまえ、さらば直きみち 踏み行くをえん
3. わが力は 弱く乏し、暗きにさまよい 道に悩む
あまつ風を 送りとまえ、さらば愛の火は 内にぞ燃えん
4. わがすべては 主のものなり、主はわが喜び、また幸(さち)なり
主よ、みたまを 満たしたまえ、さらば永遠(とこしえ)の 安きを受けん **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 **アーメン**

頌栄：讚美歌 541番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄あれ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏